

Q どんな病気にも効果があるのですか？

A 慢性疾病の治療が得意です

原因が分からない症状や、長引く慢性疾病*の治療に向いています。たとえば神経痛の場合、西洋医学では急性の痛みを止める鎮痛剤を使うのが一般的。ただし、根本治療にはならず、長期にわたり使用すると胃痛やむくみなど副作用のリスクもあります。一方、漢方医学では体内の乱れたバランスを整えることで、痛みの原因を取り除き、全身を健康に導きます。また、痛みだけでなく、冷えや疲労など関連する複数の症状の治療につながり、体質改善にも期待が持てます。

※慢性疾病でも原因が明確で、手術などで対応できる時はそちらを優先します。

即効性は？ 健康保険は？ もっと知りたい 漢方薬



Q 長く飲み続けないと効果が得られないのですか？

A 症状によりますが即効性があるものも

インフルエンザによる高熱や子どもの鼻づまりなど、急性の症状の場合は数分で効き目が得られるものもあります。慢性の症状の場合は、程度や体質によってさまざまです。ただし、2週間～1ヶ月ほど飲んでみても変化がみられない時は、薬が合っていない可能性が。そのまま飲み続けても効き目が出ないばかりか、症状が悪化する場合があります。医師と相談のうえ、別の漢方薬を処方してもらいましょう。

Q 副作用はありませんか？

A 体質との相性によっては副作用が出ることも

漢方薬の原料は、生薬とよばれる天然の植物や鉱物。「天然＝おだやか」と思いがちですが、薬ですから副作用が出る場合もあります。軽いものでは胃もたれや下痢症状、重いものでは低カリウム血症や痙攣、不整脈、高血圧などがその一例。副作用の有無は体質によって異なるほか、西洋薬を併用している場合は薬同士の相性によっても変わります。医師としっかりコミュニケーションをとりながら処方してもらいましょう。

Q どこで処方してもらえますか？

A 漢方薬を扱う病院で処方してもらえます

漢方薬には、処方箋が必要な医療用医薬品と、処方箋がなくても買える一般用医薬品があります。医療用は、病院や漢方薬局で処方してもらうことができます。ただし、漢方薬に詳しい医師がいない病院では、体質や「証」について考慮された漢方薬が処方されないこともあります。一般用は、薬局やドラッグストアで市販薬として購入できますが、生薬の含有量が少なく、健康保険の適用外なので割高です。

Q 健康保険の適用はありますか？

A 主要な148種類なら健康保険が適用されます

処方箋が必要な医療用医薬品扱いの漢方薬のうち、厚生労働省が承認している主要な148種類は健康保険が適用されます。これらの漢方薬は顆粒や錠剤になっていますが、漢方薬局では生薬をそのまま煮出して飲む煎じ薬も扱っており、こちらは健康保険の適用外になります。漢方外来や漢方専門医がいる病院でも、診療内容と処方薬によっては、健康保険適用外の自由診療になる場合があります。



健康寿命

をのぼすために
今したいこと

監修
だん しげ き
團 茂樹先生

宇部内科小児科医院院長。総合内科専門医、医学博士。1982年日本大学第一内科大学院修了、カナダ州立オンタリオがんセンター留学。那須中央病院内科部長、千代田漢方クリニック院長を経て現職。東洋医学にも詳しく、ていねいなスクリーニングによる漢方薬の処方に定評がある。

©ORANGE / ForYourImages

治療の幅が広がるもう1つの選択肢

漢方薬を試してみませんか？

西洋薬と漢方薬を併用する医師の割合は約90%*。治療薬の1つとして、広く浸透しています。その一方で、漢方薬についてよく知らないという人も多いよう。

そこで、漢方医学に詳しい内科医の團茂樹先生に、漢方薬の基本についてお聞きしました。

※資料：日本漢方生薬製剤協会「漢方薬処方実態調査(定量)2011」

取材協力：ティーベック株式会社

データに表れない
体質や特徴を重視

團先生によると、西洋医学と漢方医学は、病気の対処方法に大きな違いがあるといえます。「西洋医学は、症状そのものをピンポイントで診て、検査結果などのデータに基づいて治療します。薬は1剤につき1つの効果に特化しており、血圧を下げる、細菌感染症や胃かいようの治療をするなど、1つの症状の治療に向いています。また、性別や年齢にかかわらず、同じ症状なら使う薬もほぼ同じです。一方で漢方医学は、症状だけではなく、その人の全体を診て、乱れた体質のバランスを整えながら治療します。また、漢方薬は複数の生薬を混合してつくるため、1剤に複数の作用があるのも特徴。同じ病気でも人によって使う薬が異なったり、1つの症状の治療がほかの症状の改善につながったりすることもありません。慢性疾病や、検査で原因が特定できない症状の治療が得意です」
こうした違いを踏まえ、團先生は西洋薬をベースにしつつ、症状や個々の状況に合わせて漢方薬を併用しているそう。「たとえば急性腰痛なら、辛い痛みには鎮痛剤で対処します。しかし、慢性腰痛にはなるべく鎮痛剤の投与を避け、漢方薬で体のバランスを整えながら根本原因を治療します。両者の違いをうまく活用すれば、治療の選択肢が増え、西洋医学ではカバーしきれない部分の改善につながるのです」

漢方医学と西洋医学はここが違う

	漢方医学	西洋医学
対処方法	症状を診るだけでなく、「証」といって、体型、性別、体重、体質、表情、脈、舌など、その人の全体を診る。その上で、体内の「気（エネルギー）・血・水」の3つの不足を補い、バランスを整えることで、総合的に治療する。	症状をピンポイントに診る。検査結果などのデータをもとに、統計的かつ画一的に治療する。
処方薬	漢方薬は、1剤に複数の生薬が混合し、複合的に作用する。最近では、これまでの臨床結果をデータ化し、より効率的な漢方薬の処方をおこなう医師も増えている。	1剤につき1つの症状に対し即効性を発揮。患者の個性差にかかわらず、同じ病気なら同系統の薬を使う。